

事例⑥ マルエイシステム株式会社  
自社の独自技術とデジタルを組み合わせた新サービスの開発

## Maruei

マルエイシステム株式会社

BEFORE

新しいビジネスアイデアを実現したかったが  
自社の機器にクラウド等を連動できなかった。

AFTER

自社の機器とクラウド等を連携できたことで、  
新サービスを開発することができた。

### 【取材担当者からのコメント】

「生産性向上といった目的以外のデジタル活用を検討したい」  
「デジタル活用に踏み出すにも、躊躇してしまう」  
そんな課題感をお持ちの企業様に参考に頂ける事例です。

## 「自社の独自技術とデジタルを組み合わせた新サービスの開発」

- 業種／業界： CATV機器及び関連機器
- 社員数： 5名
- 商品・サービス： ①特殊電子機器の製造販売  
②CATV局ヘッドエンド用通信機器及びネットワーク管理・制御機器の開発・製造  
③海外製品の輸入代行・保守
- 創業：2010年（東京都本社）
- 代表：荒木 茂夫氏



### ● デジタル化に取り組む背景

- コロナ禍以前より、「若年層の人口減少に伴うCATV局設備保守の省力化」に貢献する設備機器を研究開発していた。CATV局用設備市場の大幅かつ急激な縮小にともない、従来機器の新設・買い替え需要が大幅に減ったことをきっかけに、得意とするラジオ&TV設備機器の技術を生かし、CATV局以外の新しいマーケット開拓を始めていた。

### ● 支援前の状況・課題

- 自社の独自技術を活かした新規事業の1つとして、「テレビ掲示板システム」（マンションにおける紙の掲示物を、設備設置負担が少ないデジタルサイネージに代替できるサービス）の開発を行っていた。
- 自社開発の設備機器と、クラウドDBやウェブサーバーが連動したシステムになっておらず、柔軟なサービスを実現できていなかった。

### ● 支援後の成果と振り返り

- IT専門家からのアドバイスを受けながら、クラウドDBと連携できるようにシステム構築したことで、「テレビ掲示板システム」を完成することができた。これにより、備え付けのテレビ配線に繋ぐだけで、サイネージを通した館内放送が実現するなど、受難なサービスが実現した。
- 現在は、完成したシステムの営業活動をはじめ、改善を重ねている。

### デジタル化を推進し続けるための工夫・ポイント

#### ● 自社の独自技術を生かすデジタル化

長年蓄積してきた自社の技術にデジタルを組み合わせることで、スピード感を持ってサービス開発を行うことができた。

#### ● 「やる！」と決めて実際に行動する速さ

サービス開発だけでなく、資料管理・会計システムへの新たなサービス導入や、リモートデスクトップの活用により在宅勤務の推進など、「やる！」と決めて実際に行動する速さと実行力が、デジタル化の新しい取組にあたっては活かされている。更に実行を促進するため、社外の有識者とディスカッションを重ねているのも工夫の1つ。

### ● 今後デジタル化で目指したいこと

- 今回の支援では新しいサービスを開発することができたが、今後も、大手ではやらないようなニッチなニーズ・市場に対して、クラウド・IoTを活用した新しい事業を展開したいと考えている。
- デジタル活用においても、「困ったらマルエイシステムにまずは聞いてみよう」という状態で居続けられるよう、日々可能性のあるアイデアを出し、試し続けていく。